

中高生鮎友釣り選手権・9を

8月4日に開催しました

はじめに

この大会は、2015年の第1回大会から続いているものです。私たちの先輩である当時の学生が「若者の釣り人口を増やしたい」という願いを、郡上市に発信したことが始まりです。今年で活動10年目という節目になりました。

▲集合写真



関わるみなさんへの「感謝」を大事にしたい

私は、一つのイベントをつくりあげるには、こんなにも

多くの人たちの力が必要なんだと知りました。

まずは、スポンサー様です。市内外の多くの企業を訪問して「スポンサーになってください！」というお願いをしました。そして、本当にたくさんの人から応援していただけることになりました。それと同時に、PRする義務があるということ学びました。

SNSを活用して、私たちの活動のことを発信し、活動に興味をもっていただくことを目指しました。当たり前のSNSですが、継続して運用するのは、本当に大変な仕事だなと感じました。「SNS見ただよ、頑張っているね」と声をかけてもらうこともあり、励みになりました。少しでも知ってもらえたら嬉しいです。

鮎友釣りの「真剣」勝負を通じて

この大会は、鮎友釣りの経験がない学生も出場が出来ます。それは、地元の釣りクラ

ブの方々、講習で教えてくださるからです。市内中学校は、友釣りを体験できることが多いですが、ここまで教えてもらえることは、貴重だと思います。ありがとうございます。

今大会は全国大会。東京や福井から参戦しました。昨年に引き続き、台湾から2名参戦しました。私たちは、大会を運営するということから、いろいろな学生との出会いがありました。特に台湾の学生と交流できたことは、自分の人生でも、素晴らしい経験だったと思います。

優勝は、東京から出場した村野選手でした。尾数や重さをはかるとき、とても緊張しました。一生懸命釣りをした選手の鮎を扱うのです。声に出したり、記入したりする数字がとても重かったです。

今大会は、思ったように定員が埋まらず、多くの知り合いに声をかけました。そして、自分たちの思いに共感しても

らい、出場してもらえたことが、嬉しかったです。選手にも感謝しています。



▲表彰式

新しい挑戦を繰り返してついで

毎年、郡上鮎の会は、新しい挑戦をします。今年の挑戦で大きかったものは「イオンモール各務原インター」で、公開告知会見を行ったことです。他のプロスポーツでも行っているように、選手がステージに上がり、大会の意気込みや釣りの魅力を語りました。今回は、毎年出場している選手にも協力してもらい、事前告知を頑張りました。

新しい挑戦をすることは、正直とても大変でした。「こうすればいい」というものがなく、自分たちで考える必要があるからです。その分やり切ったときは達成感が違います。

イベントを振り返って

振り返ると、まだ甘かったことが多くありました。事前に準備することが大切だと実感しました。大きな事故やケガもなく、終えられたのは、とてもよかったですが、今回の学びを生かしていくことが大切です。私は、広い視野をもって考えられるようになりたいです。そして、責任をもってやり切れるようになります。

支えてくださった全ての皆様、本当にありがとうございます。

ホームページ
こちらから



問 郡上鮎の会

清水啓太(事務局)
090・6468・9159

※本記事は郡上鮎の会に作成
いただいております、編集は最小限
に留めています。